

第 37 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和 3 年 12 月 15 日（水） 10：00～12：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

1. 取り出し規模の更なる拡大に向けた工法選定状況について

東京電力から取り出し規模の更なる拡大に向けた工法選定状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○燃料デブリ取り出しに関する工法においては、簡潔な技術の採用に伴う潜在リスクの軽減等、ステークホルダの受容性の側面も考慮に含めることが望ましい。

○燃料デブリ取り出し作業中における閉じ込め機能の確保は極めて重要であり、燃料デブリ取り出し作業が長期間に及ぶことを踏まえ、工法に応じて設備の経年劣化や環境条件等を適切に考慮して、検討を深めていくことが肝要である。

○PCV 内部状況を十分に把握できていないことから、デブリ取り出し工法の検討においては、今後の調査により得られる情報を柔軟に取り込めるよう、配慮していくことが重要である。

○α核種を含む固体廃棄物への対応については、廃棄物対策専門委員会とも連携して検討を進めることが望ましい。

2. PCV 内連続監視の技術開発について

東京電力及び IRID から PCV 内連続監視の技術開発について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○燃料デブリの取り出しプロセス全体の監視とともに、建設の無人化施工の作業監視のような PCV 中の作業の様子を監視できる技術開発を進めることが望ましい。

○監視項目の抽出について、幅広に項目を見つけるために異なる手法の組み合わせによって網羅性を高めることが望ましい。

○取り出し規模の更なる拡大時における監視体制については、燃料デブリ取り出し責任者を主とし、当直長との連携を十分検討しておくことが望ましい。

3. 次年度一件一葉の案について

NDF から次年度一件一葉の案について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○研究開発の成果が東電のエンジニアリングにどのように繋がっていくのかが分かるようにすることが重要である。

以上